

2024年の小雪は11月22日（金）です。

1. 小雪

小雪は漢字通り「わずかな雪が降るころ」という意味。積もるほどではないことから、この名が付いたと言われています。

なお小雪の前は「立冬（りっとう）」、小雪のあとは「大雪（たいせつ）」です。

立冬は冬の兆しが見えてくる頃、大雪は本格的に冬が到来する頃を表します。

小雪の節気は寒さが増す時期で、自然が冬の到来を告げるサインを送ります。

街の道々を覆う黄金色の落ち葉が、季節の変わり目を教えてくれます。

この季節の散歩は、変化する自然を体感する絶好の機会です。

雪がちらつくこともあります。昼間はぼかぼかとしていることも多く、

比較的過ごしやすい季節といえるでしょう。

なおこの時期、春のように温くなる日は「小春日和」と呼ばれています。

2. 新嘗祭

新嘗祭（にいなめさい）とは、天皇が新穀（お米）を宮中の神殿に備え、自らも食することで収穫への感謝を表す儀式。古くは旧暦11月第二卯の日に行われていましたが、1873年新暦を採用してからは11月23日に決められました。

1948年以降11月23日は「勤労感謝の日」と名前を変えて国民の休日になりましたが、新嘗祭は今も変わらず宮中や神社で執り行われています。



3. 酉の市

11月29日は「三の酉」

開運招福や商売繁盛を願い、例年11月の「酉（とり）の日」に開催される祭「酉の市」。

最初の酉の日を「一の酉」、その後、12日おきに訪れる酉の日を「二の酉」、「三の酉」と呼び、2024年は、「一の酉」が11月5日（火）、「二の酉」が17日（日）、「三の酉」が29日（金）に行われます。

酉の市とは、江戸時代から続く、関東を中心とした各地の鷲（おおとり）神社の年中行事。

11月の十二支の酉にあたる日に「酉の市」が立ち、縁起物がたくさんついた熊手が売られます。

新年の開運招福や商売繁盛を願う祭として親しまれています。



もうすぐに今年も終わるなあ、と思わずにはいられない時期、
「小雪の候」の富士山の様子を紹介した句

『霜月や 雲もかゝらぬ 昼の富士』 正岡子規

